野外における参加型音楽イベント「雑木林オーケストラ2019」を開催

A labo

活動の目的

地域性を生かしたアート活動を始めた今年度、大きく2つの目標を掲げた。まずひとつは「地域の自然を舞台にアートと関わる活動をすること」、そして「なるべく参加者に条件を設けず、誰もが気軽に参加できるアートの場をつくること」だ。アート活動を行うのは、普段アートに触れる機会の少ない地域である。そこで、芸術の中でも多くの方に馴染み深いだろう「音楽」を選択した。また、老若男女、どなたでも参加しやすいよう、音楽の経験や専門的な知識、障がいの有無など比較的関係しない「打楽器」による「即興演奏」を取り入れる。さらに、地域性を生かす、アートに関わるといった点から、地元の自然素材を利用して、音を鳴らしてみる、自分の手で楽器を制作し、音を探る関連ワークショップを計画。ここから、豊かな自然、季節、風や空気を感じながら、皆で音楽を手づくりするイベント「雑木林オーケストラ」が誕生する。音楽家が演奏する音楽をただ聴くのではない、楽譜のとおりに上手く演奏するのではない。山や空を見るように、風や匂いを感じるのと同じように、音を奏で合う野外音楽イベントである。

活動の内容及び経過

2名のパーカッショニストに軸となる演奏を担当していただき、打楽器でその演奏に参加する野外音楽イベント「雑木林オーケストラ2019」。2019年11月、津山市にあるグリーンヒルズ津山・くすのき広場にて開催した。「音楽を手づくりしよう」をキャッチフレーズに、上記イベントに向けて、竹や木など自然素材を用いた楽器制作のワークショップや、石や鈴、落ち葉、小枝等を使用して、耳をすませる、音に触れる、音を感じるアートプログラムを、今年度、全6回にわたって行なう。イベントでは、ワークショップで制作した手づくり楽器を中心に、家にある古い楽器や子どもが工作で作った楽器などを使用した。中にはイベント用に自ら楽器を制作された人、家庭にある生活用品（バケツやしゃもじなど）を工夫して音を鳴らす人もおられた。

活動の成果・効果

天候にも恵まれ、津山市近郊をはじめ、岡山県南部、県外から60名ほどの参加者が集った。大きな芝生公園が会場だったため、散歩がてら足を止めてくださる方や少し離れた場所に腰を下ろして、音楽を聴いてくださる方の姿も多く見られた。演奏に参加した人数は多いとは言えないが、ともに「音楽を奏でること」を通して、さまざまなボーダーを超えた、心の通じ合う交流ができたと思う。そんななか、想像もしていなかった意外なドラマがいくつもあり、芸術

と「コミュニケーション」の生み出した効果に、大きな可能性とパワーを見出すことができた。また、イベント終了後も、今回は参加できなかったが興味はある、参加してみたいが次の予定はあるか、などといったお問い合わせが10数件寄せられ、身近な場所でのアートイベントとして親しまれ、さらに成長していかれるのではないかと期待としている。

今後の課題と問題点

「雑木林オーケストラ2019」は参加型の野外音楽イベントであり、参加者は手づくり楽器を持って、音楽家の演奏する即興音楽に加わるというスタイルだった。その「参加する」ことを呼びかけるあまり、音楽に加わる自信はないけれど、手づくりの音楽を聴いてみたい人、まずはその場の雰囲気を楽しんでみたい人、イベント自体に興味をお持ちだった人への十分な配慮がなかったと思う。また、数人の参加者に「参加したかっただろうなと思い当たる人がいる。その人たちはイベントがあることを知らない。」と同じ感想をいただいた。情報発信や頻度の少なさもさることながら、地域の皆さんへの行き届かなさが悔やまれる結果となる。

●代表者：谷尾暁子　●所在地：津山市山北
●TEL：0868-27-2657　●E-MAIL：alabo0505@gmail.com
●URL：https://www.alabo.info/
●設立年：2019年　●メンバー数：1名（賛同ボランティア11名）